

部隊の即応態勢を実効性あるものとするため、徴集された軍人の中から契約で勤務する者を選抜する契約勤務制度の導入が進められている。契約軍人の数は、2015年に初めて徴集兵を上回り、2020年には契約軍人の数が徴集兵の約2倍になったとされた。

ウクライナ侵略においては、ロシア兵の低い士気や技

能の不足が露呈するとともに、人的損耗が顕著になっており、2022年9月には予備役の部分的動員が開始された。そのほか、政府系企業、刑務所などにおいても義勇兵を募集しているが、これら動員兵や義勇兵の一部は装備や練度が不足したまま前線に送られているとの指摘もある。

### 3 軍事態勢と動向

ロシアの軍事力は、連邦軍、連邦保安庁国境警備局、連邦国家親衛軍庁などから構成される。連邦軍は3軍種2独立兵科制をとり、地上軍、海軍、航空宇宙軍と戦略ロケット部隊、空挺部隊からなる。

戦力の整備にあたっては、かつて対峙した米国を意識し、核戦力のバランスを確保したうえで、先進諸国との対比で劣勢を認識する通常戦力において、精密誘導可能な対地巡航ミサイルや無人機といった先進諸国と同様の装備を拡充しつつあるほか、非対称な対応として、長射程の地对空及び地对艦ミサイル・システムや電子戦装備による、いわゆる「A2/AD」能力の向上を重視しているものとみられる。

☐ 参照 図表 I-3-5-2 (ロシア軍の配置と兵力 (イメージ))

#### 1 核・ミサイル戦力

ロシアは、国際的地位の確保と米国との核戦力のバランスをとる必要があることに加え、通常戦力の劣勢を補う意味でも核戦力を重視しており、即応態勢の維持に努めるとともに、各種プラットフォームや早期警戒システムなどの更新を進めている。

戦略核戦力については、ロシアは、米国に並ぶ規模のICBM、潜水艦発射弾道ミサイル (SLBM) と長距離爆撃機 (Intercontinental Ballistic Missile) を保有している。

2011年以降、ICBM「トーポリM」の多弾頭型とみられている「ヤルス」の部隊配備を進めているほか、ソ連時代のウクライナ製ICBM「ヴォエヴォダ」を置き換える大型のICBM「サルマト」を2023年中の配備開始に向け試験中としている。新型のSLBM「ブラヴァ」を搭載するボレイ級弾道ミサイル搭載原子力潜水艦 (SSBN) (Ballistic Missile Submarine Nuclear-Powered) は、6隻が就役しており、今後、北洋艦隊及び太平洋艦隊にそれぞれ5隻配備される予定である。長距離爆撃機「Tu-95」の近代化改修及び「Tu-160」の新規生産も継

続している。

非戦略核戦力については、通常弾頭または非戦略核弾頭を搭載可能とされる地上発射型ミサイル・システム「イスカンデル」や、海上発射型巡航ミサイル・システム「カリブル」、空中発射型巡航ミサイル「Kh-101」、同弾道ミサイル「キンジャル」などの各種ミサイルの配備を進めている。ロシアはこれらのミサイルを「精密誘導兵器による非核抑止力」と位置づけ、重視している。特に、「カリブル」については、同ミサイル・システムを搭載する艦艇の極東への配備が進められており、わが国周辺の安全保障環境にも大きな影響を与えうることから、注視していくことが必要である。

#### ICBM「サルマト」

【諸元・性能】  
開発中 (2023年配備予定)

【概説】  
新型の大型 (サイロ式) ICBM。MDシステムの発展を受け、極超音速弾頭を含む幅広い種類の弾頭を搭載可能としたほか、ロシアの衛星航法システム「グロナス」を誘導に用いとされる。46基配備予定。

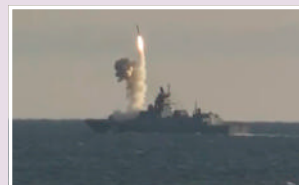


ICBM「サルマト」  
【ロシア国防省公式 Rutube チャンネル】

#### 海上発射型巡航ミサイル・システム「カリブル」

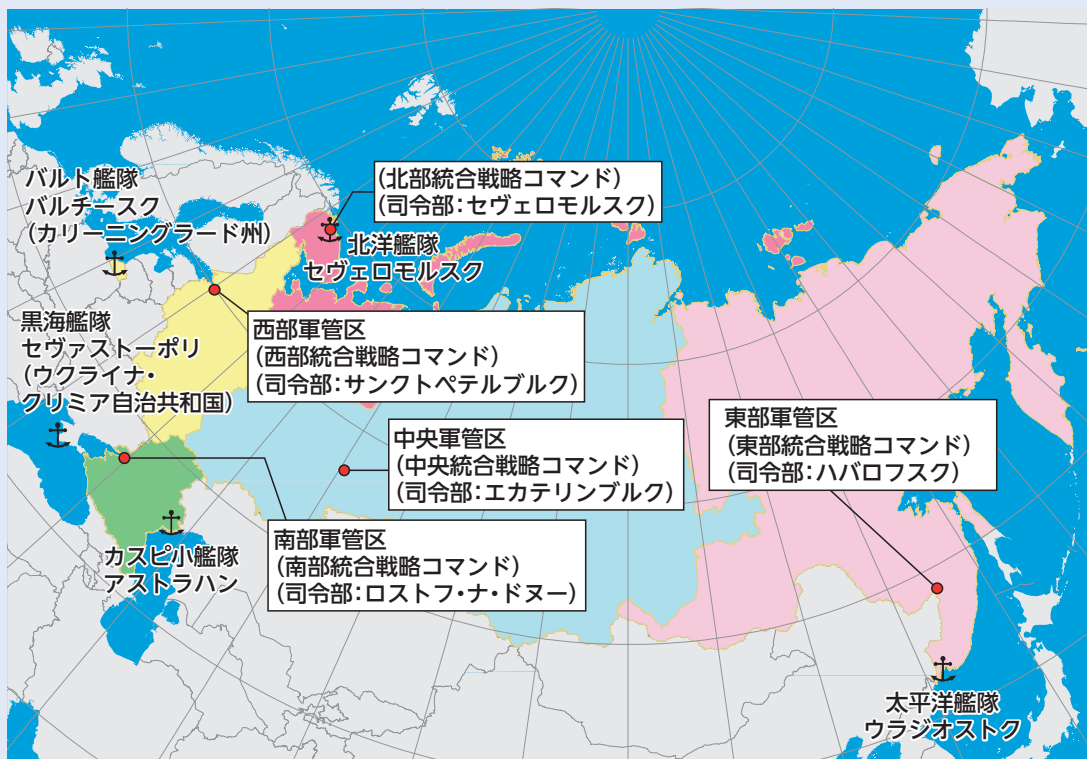
【諸元・性能】  
射程：潜水艦発射型 (対地) 約2,000km、水上艦発射型 (対地) 約1,500km  
速度：マッハ0.8

【概説】  
シリア及びウクライナにおける使用実績がある。様々なプラットフォームに搭載可能であり、ロシア海軍の各艦隊において搭載艦の整備が進められている。



海上発射型巡航ミサイル・システム「カリブル」  
【ロシア国防省公式 Youtube チャンネル】

図表 I -3-5-2 ロシア軍の配置と兵力 (イメージ)



総兵力		ロシア
		約115万人
陸上戦力	陸上兵力	約62万人
	戦車	T-90、T-80、T-72など、 約2,070両 (保管状態のものを含まず。保管状態のものを含めると約7,070両)
海上戦力	艦艇	1,170隻 約210万トン
	空母	1隻
	巡洋艦	3隻
	駆逐艦	11隻
	フリゲート	19隻
	潜水艦	72隻
	海兵隊	約3万人
航空戦力	作戦機	1,430機
	近代的戦闘機	MiG-29 109機 Su-30 122機 MiG-31 129機 Su-33 17機 Su-25 185機 Su-34 112機 Su-35 99機 (第4世代戦闘機 合計915機) Su-57 6機 (第5世代戦闘機 合計6機)
	爆撃機	Tu-160 16機 Tu-95 60機 Tu-22M 61機
参考	人口	約1億4,202万人
	兵役	1年(徴集以外に契約勤務制度がある)

(注) 資料は、Military Balance 2023などによる。陸上兵力は地上軍55万人のほか空挺部隊4万人及びロシアが自国軍への「編入」を発表したウクライナ東部の「分離派勢力」部隊3万人を含む。

## 2 新型兵器

近年、米国が国内外でMDシステムの構築を進めていることに対してロシアは反発している。

このような中、ロシアは、核戦力の基盤である弾道ミサイルへの対抗手段となりうる米国内外のMDシステムを突破する手段として、以下のような各種の新型兵器の開発を進める旨を明らかにしている。

- 大陸間の大気圏をマッハ20以上の速度で飛翔するとされる極超音速滑空兵器 (HGV) 「**アヴァンガード**」  
Hypersonic Glide Vehicle
- 最高速度約マッハ9で1,500kmの射程を持つとされる海上発射型の極超音速巡航ミサイル (HCM) 「**ツィルコン**」  
Hypersonic Cruise Missile
- 事実上射程制限がなく、低空を飛翔可能とされる原子力巡航ミサイル「プレヴェスニク」
- 深海を高速航行が可能とされる原子力無人潜水兵器「ポセイドン」

これらの新型兵器のうち、HGV「アヴァンガード」が配備済みであるほか、2023年1月には、北洋艦隊配備のゴルシコフ級ミサイルフリゲート「アドミラル・ゴルシコフ」がHCM「ツィルコン」を搭載し外洋展開を開始する旨発表されており、同ミサイルも実戦配備されたものとみられる。

ロシア自身のMD装備については、2022年春には、MD能力を有するとされる新型地对空ミサイル・システム「S-500」の部隊への納入開始が報じられているほか、同年11月には新型の弾道弾迎撃ミサイルの発射試験実施が発表されている。

## 3 通常戦力など

ロシアは、「国家装備計画」に基づき装備の開発・調達などを行ってきたが、ウクライナ侵略による損耗装備の補填需要や対露制裁による工作機械及び部品の入手困難といった事情により、同計画の続行に支障が出ているとの指摘もある。

地上軍は、「T-14」戦車や「コアリツィヤSV」155mm自走榴弾砲といった新型装備の試験を継続している。

航空宇宙軍は、いわゆる「第5世代戦闘機」であるSu-57の量産先行型の配備を開始したほか、無人機開発で有人航空機との統合に注力していると明らかにしている。

海軍は、2027年までに装備の近代化率を70%まで引

### ALBM「キンジャル」

【諸元・性能】

速度：マッハ10以上  
射程：500km (搭載機の戦闘行動半径と合わせ2,000km)

【概説】

飛翔中に機動可能な戦闘機搭載の空中発射型弾道ミサイル (ALBM)。地对地ミサイル・システム「イスカンデル」用短距離弾道ミサイルの空中発射型との指摘もある。

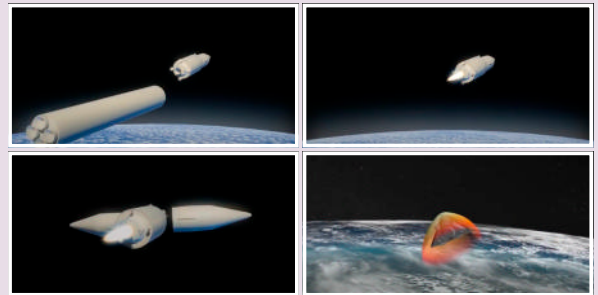


ALBM「キンジャル」  
(MiG-31Kに搭載)【ロシア国防省公式Youtubeチャンネル】

### HGV「アヴァンガード」

【概説】

マッハ20以上の速度で大気圏内を飛翔し、高度や軌道を変えながらMDシステムを回避可能とされる。2022年末時点で8基が配備されているものとみられる。



HGV「アヴァンガード」【ロシア国防省公式Youtubeチャンネル】

### HCM「ツィルコン」

【諸元・性能】

速度：マッハ9  
射程：1,500km

【概説】

「カリブル」巡航ミサイルと発射装置を共用する艦載型HCM。2023年1月配備開始。地对艦ミサイル型も開発中と報じられている。



HCM「ツィルコン」  
【ロシア国防省公式Youtubeチャンネル】

### 地对空ミサイル・システム「S-500」

【概説】

「S-400」の後継となる地对空ミサイル・システム。現在、量産先行型がモスクワ周辺の防空部隊に試験配備されているものとみられる。



新型地对空ミサイル・システム「S-500」【ロシア国防省公式Youtubeチャンネル】